



<是永 駿 氏 略歴>

- ・1943年：福岡県生まれ、
- ・1966年：大阪外国語大学外国語学部中国語科卒業、1971年：大学院修士課程終了
- ・1976年：鹿児島経済大学助手⇒講師⇒大分大学経済学部助教授
- ・1980年：大阪外国語大学外国語学部助教授⇒教授⇒2003年大阪外国語大学学長
- ・2008年：立命館アジア太平洋大学 (APU) 孔子学院長⇒2010年APU学長



<APUの沿革と特徴>

■ それは1990年代に描いた夢から始まった



英語教育、国際関係学というレベルではなく、「大学丸ごと国際化」

学生の半分が留学生

日・英の二言語



■ 基本理念：「自由・平和・ヒューマニズム」 「国際相互理解」 「アジア太平洋の未来創造」

開学時に掲げた目標

3つの
50

- 国際学生(留学生)の割合 50%
- 学生の出身国・地域 50カ国・地域以上
- 教員構成(外国籍教員比率) 50%

世界でも例を見ないマルチカルチュラル・キャンパス
多文化環境の中で 学生が真に成長する教学創造



正規留学生比率	96.8%
外国人留学生比率	47.0%
教員総数	174名
外国籍教員総数	87名
外国籍教員比率	50.0%

※2014年4月1日付。総数は常勤の教授、准教授、講師の合計

キャンパス
= 42万㎡



コミュニケーション力・積極性・協働性に高評価

国内学生 ▶ グローバル企業を通じて全世界へ

国際学生 ▶ 日本企業 or 母国へ

[国際学生の就職動向・特徴]

日本で就職 50%

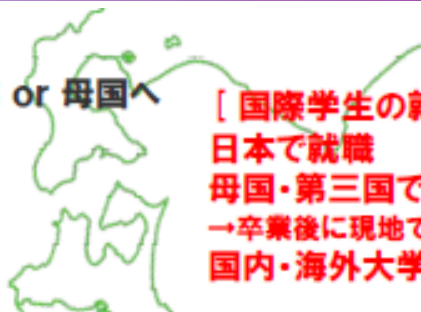
母国・第三国で就職 40%

→卒業後に現地で就職活動→3~6カ月で採用・入社

国内・海外大学院進学 10%

就職内定率

94.4%



■ Diversity: 多様性が創造性を生む

国・地域別学生数 (主要国・地域) (2015年5月1日)

国・地域	合計
中華人民共和国	526
大韓民国	511
ベトナム社会主義共和国	437
インドネシア共和国	269
タイ王国	253
ウズベキスタン共和国	105
アメリカ合衆国	73
台湾	59
スリランカ民主社会主義共和国	62
バングラデシュ人民共和国	71
ネパール連邦民主共和国	47
インド	36

国・地域	合計
モンゴル国	25
ミャンマー連邦	24
フィリピン共和国	17
シンガポール共和国	16
カンボジア王国	15
ノルウェー王国	8
マレーシア	9
パキスタン・イスラム共和国	9
その他	194
国内学生	3,116
国際学生 (留学生) 合計	2,766
APU学生総計	5,882



■ 学びのかたち・学習サポート

春・秋の2回入学とクォーター制の採用

- 開学以来、春と秋、年2回の入学・卒業を実施
- クォーター制(1クォーター=2カ月)とセメスター制の併用により、柔軟な学習スケジュールが可能
- 集中的な学び(同一科目週2回)で学習の節目・山場が頻繁に

日英二言語教育 ※学部のみ

- 「英語を学ぶ」から、「英語で学ぶ」へ
- 習熟別クラスと少人数授業で徹底的に鍛える言語教育
- 多文化キャンパスのいたるところで鍛えられる言語運用能力
- 授業ではプレゼンテーションやディスカッションを多用

∴ 日本企業の採用: 「日本語が出来て外国語も」が必要



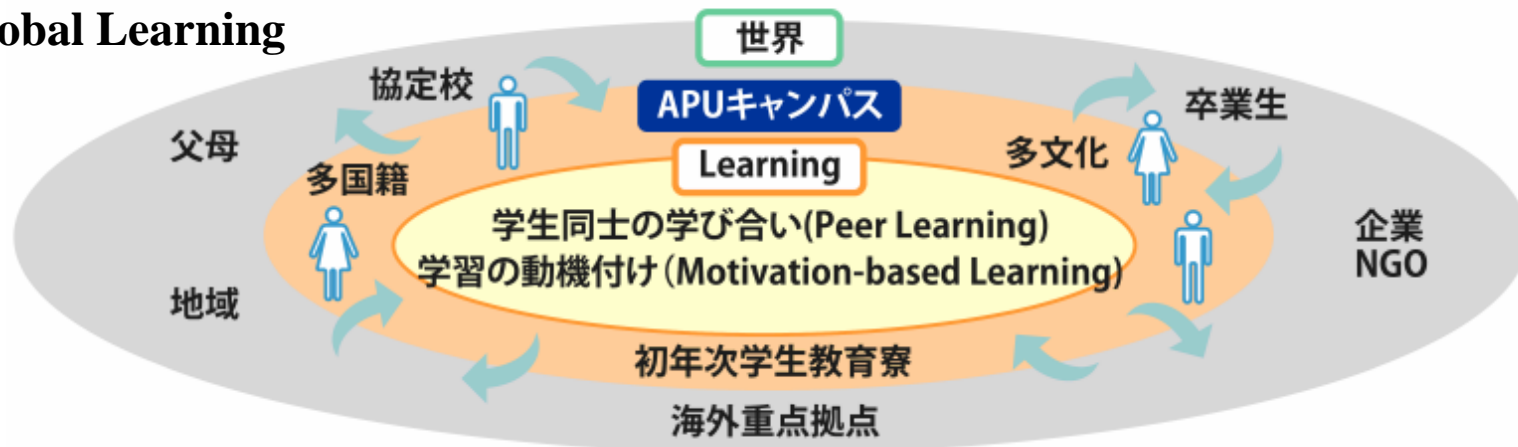
体系的なカリキュラムと国際基準の成績管理

- 科目レベルと履修の順次性を示す科目ナンバリング
- 5段階評価とGPA(Grade Point Average)による厳格な成績管理
- 期末試験は成績の50%以下、日々の学習や授業参画状況も評価
- 海外の大学で採用されているUMAP単位互換方式(UTCS)を採用

協調学習システム

- 学生が学びあう環境、文化
- 多様な学生スタッフが大学運営や教育活動に参画
- 言語自主学习センター「SALC」で学生同士が教えあう
- ラーニング・commonsで活発なグループワーク

■ Creativity APU Global Learning



■ 文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」(2014年～2023年)

- ・タイプA: **トップ型**(13校)
 - * 世界大学ランキングトップ100を目指す力のある、世界レベルの教育研究を行うトップ大学を対象
ex. 北海道、東北、筑波、東京、東京工業、京都、慶応義塾、早稲田、etc.
- ・タイプB: **グローバル化牽引型**(24校)
 - * これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、わが国の社会のグローバル化を牽引する大学を対象
ex. 千葉、東京外国語、東京芸術、芝浦工業、上智、明治、立教、立命館、立命館アジア太平洋、etc.

■ 事務局伊藤さんのお話

- ・優秀な国際学生(留学生)のリクルートが大変、特に設立当初は
- ・最近もインドネシアで13人面接したが、そのうち4人が「将来大臣になりたい」と発言
- ・欧米の著名な大学より複数のオファーを受けている学生も多数(ex. エジンバラ大学)



■ アリフ・モハンマドさん(2011年APU卒業)のお話

- ・入学するまでAPUの掲げる“Shape your world”以外、日本のイメージは「良い車を作る国」ぐらいしかなかった
- ・勿論日本語力ゼロで入学したが、日本語の授業を週30時間受けて現在は不自由なく話せるレベルに
- ・またカルチュラル・ウィークでインドネシアを見て、文化のよさを実感、2009年にはバングラデシュ(母国)ウィークを開催、現在は日本の会社(日本信号)に勤めている

■ 桂さん(東大経済学部の片平ゼミ生)のお話

- ・幼少期に日本にいたので、日本の良さを知っていて東大に正規留学、ただ高校生の時に東大からのリクルートがあって、その時に拉致されたかったのに、事務的説明のみでガッカリ！それに比べAPUは面倒見が良さそう
- ・一方(見た目もしゃべりも日本人なので)最近は日本人の物真似がうまい中国人になった気がして悲しい

■ 小田垣さん(小田垣ゼミ教官)のお話

- ・中国の明朝同様、日本も鎖国していて外国から良い武器を入手できなかった。そんな中で西欧による植民地化が迫り、日本は明治維新で「脱亜入欧」を目指し、エコノミックパワーで繁栄してきたが、ここに来てもう一度アジアの一員としての意識が必要ではないか。
- ・最近片平さんとインドネシアを訪れたが、(今はISなどイスラム教の悪いイメージが広がっているが)、本来のイスラム教の素晴らしさを知った。超格差社会のアメリカなどと違って、富を得たものはそれ以上を分け与える教えがあり、日本も学ぶべき。(日本は言われているほど格差はなく、平等な社会だが貧困層の増加が問題)





■ Q & A

- Q: 国際学生の半分は日本の企業に就職するとの事だが、日本企業の社長の給料は欧米に比べて相等安い、なのに何の為にAPUで学ぶ？
- A: それはAPUの崇高な理念に惹かれてではないか、また世界各国からの学生が集まると**視点が相対化**される。研究留学なら最先端のところ集まるから米国となるが、学部留学では国のブランド力・経済力・安全力がキー。APUが**日本の鎖国的(排他的)文化に風穴を開けたい**
- Q: (公文はAPUの学生にリーダーになってもらって子ども達向けのイングリッシュイマージョンキャンプを開催しているが...)いまさらながらグローバルとは？
- C: グローバル人材とは、世界で通用かつ自己主張が出来ることではないか
- Q: (ゼミ生、1年間アメリカ留学経験者)東大だと回りが凄い奴らばかりで刺激を受けるが、APUはどのように日本人学生を呼び込もうとしているのか？(どう日本人に魅力を伝える？)
- A: 私立の場合厳しい、日本も欧米並みに国公立と私立の学費を同じ程度にしないと。また偏差値重視も問題。さらに大学は休息タイムとの思いも。APUに入る学生は社会科学と海外生活の疑似体験に興味ある人。(関東からの学生は本人より両親の方がAPUの理念に賛同して、入学を希望するが多い)
- Q: 日本人のメンタリティは本当にアジアの一員と思っているのか？むしろ特殊なのではないか？一方留学生は日本に来ると(アニメや食事などで)さらに日本が好きになるようだが、日本の魅力が伝わってないのでは？
- A: リックルート時に特に日本の魅力を伝える事はしていないが...、日本が特殊というのは日本語が世界の中でも、特殊な体系を持っていることから言える。日本はアジアを侵略して敗戦し降伏したのに、なぜアジアと同じ地平に立てないのか、いまだに優越感のようなものを引きずっているようだ。
- 片平: APUは1995年に話が始まって2000年に開学、たった15年でよくここまで来た。基本理念や「3つの50」など素晴らしく、卒業生も世界中に散らばって、全員に愛校心がある。普通新設校は3年ぐらいで人が集まらなくなるが...。(最近人気急上昇中の近大も「偏差値を追うな」と言いながら「関関同立に負けるな」とか?)

<感想>

こんなに多様性があって、かつ優秀なグローバル人材を育てる大学が九州にあったとは知りませんでした。正に長崎の出島ですね。ただ秋田のAIUや軽井沢のISAKほど日本の学生にアピールされてないのが残念。